

学校通信

強い網

主張するユウジユウジ

高校校長 酒井徹哉

ワールドカップ終了

サッカーワールドカップ・ブラジル大会は、残念ながら日本の予選リーグ敗退という結果に終わった。大会が始まったころ、日本の選手団が会場に到着する際に乗っていたバスが話題になった。ボディは日本のユニフォームのカラーリングになっていたが、HYUNDAIと大きく側面に表示された、韓国・現代自動車のバスだったからである。

一部の嫌韓論者たちの間では、なんで日本車を使わないのかという議論があった。しかし、これは仕方ないこと。公式スポンサーは、「業種一企業と決められている。同じく現代グループのKIA(起亜自動車)のバスも映像で目にした。

もし日本企業がスポンサーだったら、どうだろう。バスの「横っ腹」に大きく企業名を描くだろうか。そう考えながら車を運転していると、日本の乗用車には、企業のロゴマークがあっても、企業名のプレートはほとんど付いていない。付いているのは車名である。日本で必ず企業名のプレートを付けているのは、私が乗っているマツダ車くらいではないだろうか。

最近では、韓国製バスが日本にも登場している。中小のバス会社を中心に、現代グループのほか、DAEWOO(稀一大宇バス)

2014年6月/7月号

新版 第67号

編集

駿台甲府高等学校

駿台甲府中学校

駿台甲府小学校

のバスもときどき見かける。いずれも側面や背面に大きく社名のプレートが付いている。

日本車に比べると、韓国車の企業名のアピール度は極めて大きい。車名を主張する日本、企業名を主張する韓国、この違いは商品を通して国をアピールしようという意識の強さによる。未確認情報だが、韓国のバスや鉄道車両は、新車を輸出する際も、あちこちにハングル表記を残したままにしているらしい。

その場で言うべきこと

旅好きな私は、年中あちこちに旅に出る。最近ホテルの予約は、便利なウェブの予約サイトを利用する。その時「口コミ」を参考にすると、時々首をかしげるものがある。例えば、「部屋の備品が不足して不便な思いをした」「室内灯が切れていて暗かった」などというもの。これらは当然、すぐにフロントとなりハウスキーパーに苦情を言って、善処してもらえらる事柄である。

無理な要求を突き付けることは、褒められることではないが、当然主張すべきことは主張してしかるべきである。その場で主張しないでおいて、あとからネット上で苦言を呈するという風潮が、当たり前前のようになってきた。

学校現場でもこんな事があった。一年ほど前だが、ある保護者から施設の使用について要望が寄せられた。当然生徒から担任か担当教員に要望が出され、断っている案

件であろうと考え、教員に照会するが、誰もそのような要望は受けていない。どうやら、生徒は教員に要望してはおらず、保護者に伝え、保護者がまず要望を出してきたようである。

子供が、学校に対して何か要望を保護者に訴えた場合、その内容が大人として妥当だと判断したなら、まずは『先生に相談したら』とするのが普通ではないだろうか。その要望がどの程度強いものなのか、生徒が困っているのかとかは、当事者でないとはわからない。もちろん、生徒にとっても苦手な先生がいるかもしれない。学校は役所の窓口とは違うので、どの先生でもよいかから、まずは相談・要望してほしい。たとえ一度断られても、食い下がるくらいの情熱があれば、こちらも考え直すかもしれない。

若かりし頃、学園祭の担当をしていたとき、生徒から無茶な要求が出されるが多かった。当然許可できない要求で、ダメと断る。しかし、彼らは何度も押し付けてくる。挙句の果ては、怒鳴り合いにまでなった。最終的に、ダメなものダメで押し切るのだが、彼らの熱意は感じられた。

最近の生徒は、一回ダメというとなぐに引き下がる。おとなしいというか、従順なのか、一度断られた位で諦めるようなレベルの要望なのかとも思ってしまう。

自分の主張をはっきりとすることで、周囲の理解を得たという話がある。元Jリーガーの楽山孝志氏、彼は二〇一一年からトルシエ監督(懐かしい!)率いる、中国深圳のプロチームに所属した。折しも尖閣問題で日中関係は悪化の一途。試合中に罵声が飛ぶ。周囲は試合に出ないほうが良いのではと気を使った。

しかし彼はどうしたか。必死に中国語を勉強する。そして、罵声に対して反論する。スポーツに政治を持ち込むなど主張する。すると、罵声は徐々に減ってきた。昨年末

彼は退団した。現役引退後、第二の人生の場所として選んだのは、なんと中国。サッカー塾を開いて子供たちに教えている。主張したからこそ、そこまで中国人に理解されるようになっていた。

松本サリン事件

去る六月二十七日、松本サリン事件から20年目を迎えた。保護者の皆さんはご承知だろうが、オウム真理教による、都市における無差別毒ガス攻撃である。結果的に八名が亡くなり、多数の方々が中毒症状を訴え、今も後遺症に悩む人も多い。

事件の被害者で、第一通報者の河野義行さん。被害を受けて受け入院していた河野さんだが、退院後過酷な取り調べが待っていた。警察に容疑をかけられ、マスコミには犯人扱いされた。無実の人間に対する、冤罪や報道被害について多くの反省点を残した事案である。

実は河野さんの子供たちも、「被害」に遭っていた。当時15才、高校一年生の河野仁志さんは、自宅を訪れた警察官から厳しい事情聴取された。

重要参考人の河野さんに対しては、弁護士がつき、本人をサポートできたが、息子の仁志さんにはそれはない。母親は重体、父親は取り調べ中という極限状態。最後は警察官から『お父さんはもうしゃべっていない』と事実とは異なる誘導をされ、脅されたそうである。それでも彼は、知らないものは知らない、真実だけを述べた。

彼がもし警察に有利な証言をしていたら、河野さんは確実に逮捕されたであろう。高校生の彼の、その態度と主張が、父親を救った大きな要因になっているといつてよい。主張しないということ、謙虚であるということとは全く違う。謙虚であれ、しかし言うべきことはしっかりと伝えたい。

高校より

駿高祭1日目

駿高祭実行委員担当 堀江 健太郎

今年も学園祭の初日は、コラニー文化ホールにて、生徒たちのみなぎる熱気に包まれてスタートを切りました。開催式から吹奏楽部の演奏はまさにライブといった雰囲気盛り上がり。演奏する生徒も観客の生徒たちもこの学園祭とともに盛り上げていくという想いで一つとなつて、音楽と共に心も体も飛び跳ねています。そして私はそんな生徒たちの様子を舞台袖からそつと見つめていました。この学校のOBとしてそして教師として、この学園祭が生徒たちにとつて大切な思い出となつて残るといいな。彼らのこの日にかけてきた思い、期待や不安やバカ騒ぎを、陰からきちんと支えてあげようと考えながら、進行表をめくつていました。

おそらく会場に駆けつけた方もそうでない方も、保護者の皆様はみな、この日に生徒たちがキラキラ輝くことを待ち望んで



らつしやつたことでしょう。

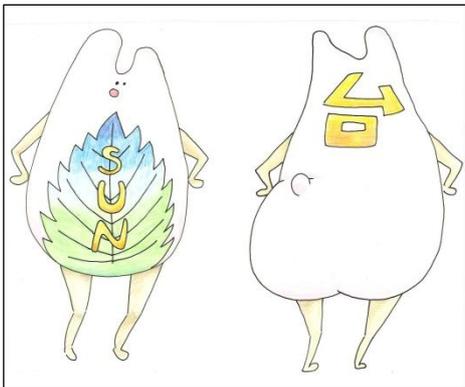
学園祭というのは、学校生活において特別な時間です。特にクラスパフォーマンス大会は、生徒たちが主体的に、それぞれの互いの個性を生かし、共創していく一大イベントです。本番の日を迎えるまでに、生徒たちは様々な過程を乗り越えなくてはなりません。何をやったらいいか、すぐに意見が出るクラスもあれば、なかなか決まらないクラスもあつたでしょう。意見が割れるということも当然あります。気持ちのすれ違いによつてケンカ寸前までいつてしまふことだつてあつたかもしれません。しかし、人はそれぞれ違うのであり、自分とは異なる考えの人ともコミュニケーションをとり、悩みながらも一つの作品を作つていくという経験は、グローバル化の進むこれからの社会を生きていく上で必須の素養である「異文化理解」にも通じる非常に重要な学びだろうと思ひます。そのような学びを積み重ねて、生徒はついに舞台上に上がります。1年生は何が何だかわからないうちに終わつていつたかもしれません。舞台上に立つて初めて、ああこういうことだつたのか、と気づいて、今回はこうしよう、と考へたかもしれません。2年生は去年の反省を生かして、よりよいものを準備してきたことでしょうか、3年生は最後にでつかい花火を打ち上げてやろうと息巻いていました。舞台裏にいますと、実際のステージ上の作品はなかなか落ち着いて見ることができませんが、その代わり、生徒たちの様々な表情を目撃します。やる気に満ち満ちた表情、緊張を隠せないであたふた、小道具が見つからなくてドタバタ、やつたー！と言つて抱き合う生徒、間違えたー！と言つてしやがみこむ生徒。舞台裏はまさにドラマの連続でした。生徒たちにとつて、この日の事がきつと一生ものの学びとなりまふように。

生徒会企画『ゆるキャラ』

生徒会 永山紀雄

生徒会企画として4月18日の中央委員会にて承認を頂き、5月2日の生徒総会で発表した企画です。『駿台甲府高校』のゆるキャラということで、美術デザイン科に早々企画内容を説明し、山梨県総体前に19作品の応募が届けました。普通科では6月に入つてすぐに企画の応募を提示し14日締切で、5作品の応募がありました。駿高祭(19日・20日)の2日目に投票を実施するため、少しでも作品を観てもらおうと、16日に進路指導室前に全24作品を展示しました。全生徒および教職員、教育実習生を含め投票していただきましたが、投票率が低く、10票を超える作品がなく、残念な投票結果となりました。駿高祭閉会式の表彰の最後に、生徒会長より説明があつた通り後日、生徒会役員14名で再度全24作品を様々な視点から観直しました。その絞り出した結果をこの紙面で発表することになります。最優秀作品は『SUNX2』(キャラクター名)美術デザイン科2年生の加藤舞さんの作品です。

この後、この作品をどのようにな活用していくのかを検討していかなければなりません。今後ともご協力よろしくお願ひします。



インターハイ・甲子園予選問近

暑さが身に伝へる甲府の夏がやつてきました。しかし、生徒は、梅雨も猛暑もものもせず、学習に、部活に励んでいます。全国高校野球選手権の山梨県大会(甲子園予選)が始まりました。本校の初戦は、13日に富士北麓球場で甲府商業と対戦する予定です。昨年のベスト4を上回り、全国大会に駒を進めるべく、連日汗を流しています。応援しましょう。

一方、男子ハンドボール、女子ハンドボールが、県予選で優勝し、神奈川で開催されるインターハイへの出場を決めました。22年連続出場となる男子は、昨年の全国ベスト8を自信にして、さらに上位を狙っています。男子ソフトテニスでは、若月南君と白井慶史郎君のペアがインターハイの出場権を獲得しました。

また、南関東という厳しい地区予選を突破してインターハイ出場を決めたのが、陸上部の二人です。男子8種競技の山下黎君と女子二百メートルの山田美衣さん。地元開催だからといって、なんの優遇措置もなく、神奈川で開かれた大会を勝ち抜いての出場です。7月30日〜8月3日には小瀬で躍動します。ご声援よろしくお願ひします。

さらに、水泳部では14人が関東大会に出場します。その成績によつてインターハイ出場選手が決まりますが、女子フリーのリー等、大いに期待できる種目がいくつもあります。

既に主力を2年生へと譲つたクラブもありますが、他の運動系のクラブ、文科系のクラブもそれぞれ、大会やコンクールを目標に練習に取り組んでいます。実力を発揮し活躍することを願っています。(石川)

中学校より

駿中祭特集

吹奏楽部顧問 内山晶夫

駿中祭は、我が吹奏楽部の部員たちにとって、8月の吹奏楽コンクール(吹コン)と並んで、大きな目標となるイベントです。今回披露した曲は、人気アイドルグループ嵐の『ハピネス』と、今年の吹コンでの演奏曲、江戸時代の浮世絵師東洲斎写楽のイメージから、歌舞伎の世界と謎に満ちた写楽自身の姿を表現した『写楽』そして、日本歴代2位、世界歴代5位となり記録的な大ヒットとなっている、ディズニの長編アニメ『アナと雪の女王』の主題歌『レット・イット・ゴー(ありのまま)』です。

実は、この3曲が決まるまでに、部内でもともしびア(厳しく過酷)な議論が展開されました。毎年、メインの曲として演奏することにしている吹コンでの演奏曲は、「金」を指す曲を選曲しているため、与えられた期間で人に聞かせる曲に仕上げるのに、相当ハードな練習を強いられるため、部員たちは不安と苦痛を味わうことになりました。なぜそこまでして披露しなければならぬのかという意見が出て当然のことです。そして、議論の末、「やっぱりやるう！」と決まりました。残りの2曲を楽譜配付から一週間で仕上げるという状況の中で、彼らは練習に取り組み駿中祭に臨みました。そして、まさに『Enjoy a lot!』未体験の喜びを『』を掴み取ったのです。そんな彼らに心からの拍手を送ります。

合唱部顧問 中村圭世

本年度も高校の合唱部と合同で発表しました。今回発表したのは、「心の旋律」と「流浪の民」です。この2曲は6月7日に河口

湖ステラシアター行われた山梨県合唱祭でも歌った曲です。「流浪の民」は昔からよく歌われている有名な合唱曲ですので、保蔵者の皆様の中には懐かしく思われた方もいらっしゃるのではないかと思います。

今年は合唱祭から中高合同で発表してきましたので、GWから合同練習を何度も重ねてきました。毎回、高校生が中学校の校舎までわざわざ足を運んでくれました。時には雨の中、ずぶ濡れになりながらも中学校に練習に来てくれたこともありました。中学1年生から高校3年生まで年が大分離れていますが、中高の合唱部員はとも仲が良く、中学生は高校生をとて慕っていますし、共に練習をすることで、中学生は高校生から多くのことを学んでいます。中高一貫校であるからこそ、このような活動ができるものと思いますので、今後も機会があれば中高合同での活動をしていきたいと思っております。

最後になりますが、お忙しい中ご指導くださいました天明屋恵子先生、若林秀和先生、合唱を聴きに来てくださいました保護者の皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

最優秀賞 3年C組担任 中島朋子

当日の生徒の声に耳を傾けると、演技終了後の会場の反応が微妙で、充実感は得たものの、最優秀はないだろうという気持ちだったそうです。ただし、流行りでなく魅せるものを、という目線での作品づくりが評価されたのか、思いがけず最優秀を受賞でき、涙と笑顔がクラスに溢れました。なかなかクラスでは、部長を務める生徒も多く、担任も保育園のお迎え時間があり、直前の一週間、十七時までが勝負という環境でしたが、さすがは中三、少数精鋭のスタッフ陣も奮闘し、実は全く意味のない『深

夜二時の妄想』という題名もあっさり決まり、練習期間に入った最初の二日間とはとも順調に進みました。しかし、魔の水曜、男子が曲を変えようという英断で、そこから怒涛の三日間を迎えることに。金曜に心が折れる生徒が出つつも支え合い、土曜のリハが終わると、最後に一体感を出すための演出がさらに練られ、全てが固まったのは、結局、帰りの学活でした。女子は地道な努力と互いを認め合えたこと、男子は目を見張るほどの集中力、最後に(担任は円陣から忘れられるほどの)男女で肩を組んだ一体感、そして影で支えてくださったご家庭の力で、すべてを乗り越えられたと思っております。本当にありがとうございます！

優秀賞 1年D組担任 手塚美樹

1Dは、「時空を超え伝説となれ ピーチボーイ」というダンスを交えた劇を発表しました。鬼ガ島から帰ってきた桃太郎が、実は村の侵略を図る鬼の一味であったという新しい物語を作りました。桃太郎は、銃という新たな武器を手におじいさんと戦いを挑みます。しかし、おじいさん、おばあさんも、バズーカ・ダイナマイトという武器を使い抗戦し、最後には、桃太郎と鬼から村を守るというストーリーでした。

クラスパフォーマンスの話し合いは、たくさんアイディアが飛び交いました。男子は劇、女子はダンスと希望も分かれる中で、役割分担がはっきりし、結果それぞれに練習を重ねて、1つのパフォーマンスを仕上げることができました。

しかし、1週間前まで、「ダンスは恥ずかしいからできない」「劇で舞台に立つのは嫌だ」と、全員が意欲的に参加する雰囲気ではありませんでした。そんな中、数名の生徒が、ダンスの練習を始めたり、クラスに呼びかけたりと働きかけ、徐々にクラスの

気持ちの一つになっていきました。劇チームもダンスチームも裏方チームもそれぞれに意見を出し合い、よいものに仕上げようと取り組みました。普段から活発な生徒も、そうでない生徒も、生き生きと活動していました。それぞれがお互いの新しい一面を発見し、認め合うよい機会になったと思います。緊張の中の初めて駿中祭は、とても楽しめたようです。ありがとうございます！

優秀賞 2年D組担任 野倉英明

よく優勝できたな、と感心しています。女子は早い段階で仕上がっていたものの、男子の立ち上がりは学年で最も遅れていました。これに迎合せず容赦ない指導をして回る女子、それに応えてようやく動き始める男子。中学生を眺めて「地球は女で回っている」などと実感する日が来ようとは思ってもいませんでしたが、駿中祭当日はクラス全員が大いに活躍し、絆は深まったようです。例年、この時期に教育実習生がやって来て、駿高時代の経験を活かして後輩を指導してくれるものなのですが、2年D組に来た富安先生は部活で忙しい高校生活を送ったらしく、「駿高祭の記憶がありません」ということで役に立ちませんでした。担任の私は「先生、あれとこれが欲しいのですが」と言われても車を持っていないのでたいしたもの運ばせませんし、男子はどいう音楽で踊ればよいのでしょうか」と相談されてもテレビを持っていませんので流行に疎く、やはり役に立ちませんでした。生徒たちはこのような劣悪(?)な条件の中、自分たちだけの力で学年優勝を勝ち取るといふ貴重な経験をするのができました。きっと背景にはご家庭の多大なる助力があったのだと思います。ありがとうございます！

小学校より

第十三回大運動会

体育主任 齊藤 隆一

六月二十九日(日)小瀬スポーツ公園補助競技場で、第十三回駿台甲府小学校大運動会が開催されました。

当日の明け方まで激しく降っていた雨も開会式の頃にはすっかりあがり、つきぬけるような蒼い空のもと、児童は、赤・白・青・黄の四色に分かれ、力一杯演技や競技をしました。

今年の運動会のテーマは、「勝利と絆を手にする瞬間」です。各色、優勝を目指して縦割り活動の時間に練習を重ねてきました。団長をはじめとする応援団が中心となって行う「応援合戦」、一年生から三年生の低学年の部と、四年生から六年生の高学年の部に分かれて色対抗の総当たり戦で戦う「綱引き」、一年生から六年生まで全校児童が登場し、高学年二人が外側、低学年二人が内側の四人一組で一本のバーを持って中心のコーンを回り、待機している色の仲間がバーを飛び越え、くぐり、まさに各色が一体となって行う「台風の目」。どの色も練習を重ねるたびに上達し、本番が近づくことに、気持ちが一つになってきました。

本番では、それぞれの種目に順位がつかしましたが、結果以上に縦割りメンバーと気持ちを一つにしてまとまることで得られた絆、笑顔、くやしき、悲しき、喜びなど、多くを学ぶことができたのではないでしようか。

また、今回の運動会は、一年生にとつて初めての運動会でした。一年生は、本番に向けてはりきって練習に励んできました。駿台ソーランでは、一緒に踊った二年生の姿を、縦割り活動や運動会当日には、力いっぱい演技する上級生の姿を目にして、次

の運動会は、自分たちも上級生のようになりたいと思ったことでしょうか。

そして、六年生にとつては、小学校最後の運動会となりました。開会式の各色の団長による素晴らしい宣誓をはじめ、最高学年として低学年をリードし、委員会としても当日の仕事を全うし、自分たちの背中で、全校をひっぱってきました。組立の最後に完成させたピラミッドは、全てが詰まった集大成だったと思います。六年生にとつて今回の運動会は、忘れることのできない思い出になったのではないのでしょうか。

一年生から五年生の中には、もう来年の運動会を楽しみにしている人もいることでしょう。これから一年間で、体も心もより大きく成長し、より素晴らしい姿を見せてくれることを期待しています。

最後に、運動会は小学校の大きな行事の一つです。今回の運動会実施にあたり、PTA体育部をはじめ、PTA役員の皆様や保護者の皆様の多くのご支援・ご協力をいただきました。皆様のおかげで運動会を無事に実施することができました。心から御礼申し上げます。



燃えろ！赤組！

赤組担当 筒井 雅美

第一回のたてわり活動で掲げた赤組の合言葉は『本気』と『協力』。どんな時でも、どんなことでも最後まで本気でやり遂げる。一生懸命に勝るものはないということ。仲間と心と力を合わせて団結すること。これらを運動会の醍醐味、運動会を通しての学びとし、本番に向けて競技や応援の練習に励んできました。練習を支えてくれたのは応援団メンバーと六年生。最高学年として自らの有終の美を飾るべく、そして、後輩たちに駿小の歴史を見せ、託すべく、気合の入った取り組みを見せてくれました。

運動会当日「赤組！本気出していくぞ！」という力強い、天まで届きそうな応援団長の大きなかけ声に、「おおお！」と拳を高く上げながら応えた赤組全員の表情は『優勝』という目標に向かって突き進む気合に満ちていました。応援団長に教わった通り、体を反らしながら、空に向けて精一杯大きな声を出し、最高の応援合戦をすることができました。色組対抗競技の台風の目では、高学年が低学年をリードしながら、たくさん練習してきた成果を発揮し、堂々の一位。練習ではなかなか勝てず、芳しい成績を残せなかった綱引きでは、気迫あふれる底力を出し、勝利をもぎとっていききました。

そして迎えた結果発表。「赤組の優勝です！」という結果に、大歓声と拍手、清々しい笑顔があふれました。どんな時でもどんなことにも全力をつくすこと、団結することの意義を感じ、それを実践できたことが、何よりの学びであったと思います。赤組、優勝おめでとう！

黄組はこんな二位でした

黄組担当 奥石 純一

運動会本番三日前、本番に向けた最後の応援練習。黄組応援団長、六年生坂本大地君の言葉通り、まだまだ物足りない練習になってしまっていました。運動会に向けた黄組全体の練習の雰囲気作りがうまくいっていなかったのかもしれませんが、そのことは、リーダーである私自身に責任があると感じています。

運動会当日。競技をすべて終えて、結果は二位でした。午前中のスロースタートぶりから見れば、しり上がり調子を上げていき、子どもたちの本気を随所に見ることができました。黄組全体はまとまり、練習の時以上の団結力が出ていました。団長の言葉にも、その変化が出ていたように思います。そして、黄組の児童席にいた田中先生が見てくれたのですが、黄組の応援席からはとても大きな声援が上がっていたようです。その表情を撮影した写真を見た時には驚きました。

くやしかったのは、自信のあった種目である綱引きで、いつも通りの作戦が生かされず、あわてた状態で競技が行われてしまったことです。はじめの頃のような状態に戻ってしまっていた、そんな印象でした。結果は二位でしたが、優勝できなかったことをプラスにとらえていきたいと思っています。自分たちには足りないものがある、と感じてくれれば、次にチャレンジするときはもっと大きな力が出せると思います。私自身も、子どもたちの気持ちをまとめ、応援団長の力をもっと引き出せる人間になれるように、精一杯力を尽くしたいと思います。

高校より

第34回駿高祭【二日目】

SUNDAIRECTION

くたった三年で人生は変わる

駿高祭顧問 岩堀 大介

去る6月19日・20日、第34回駿高祭が行われました。テーマは、三年B組発案のSUNDAIRECTION。くたった三年で人生は変わる。で、駿高での三年間が生徒にとつては意義ある貴重な時となることが込められているものと思われま。初日のクラスパフォーマンスには550名、二日目には300名を超える方々においていただきました。ありがとうございます。ありがとうございました。

初日の熱気を引き継いだ二日目は、梅雨の最中の好天にも恵まれ、予定された企画を一般の方々にも楽しんでもらえたことと思いま



書道パフォーマンス



ディベート部

は喫茶店に一工夫加えスピーチのTEDを放映し外国の雰囲気を出していました。その他にも恒例となつている、演劇・ディベート・ピタゴラススイッチ・お化け屋敷など趣向を凝らした企画



フェイスペイント(美術部)



バンド

が校舎内で公開され、グラウンドではスポーツクラスによるスポーツイベントが行われました。最後に、東日本大震災の復興支援のための義捐金の継続を中央委員会を通して協力をお願いしました。生徒、ご来場いただいた皆様のご協力により収益の一部を義捐金とさせていただきます。詳細は別の機会に報告させていただきます。ありがとうございます。



模擬店(テント村)



ピタゴラススイッチ

塩部グラウンド人工芝化工事

副校長 八田 政久

開校以来使用してきました土のグラウンド状態が非常に悪化し、生徒の活動にも支障をきたす状態になっておりました。また、地域周辺には砂埃でご迷惑をかけておりました。



そのため、35周年を迎えるに当たり、理事長はじめ学園関係者のご尽力により、念願の人工芝グラウンドが施工されることになりました。また、この事業にはPTAの多大なるご寄付を頂いております。今後もご協力いただけたら幸いです。完成予定は9月末日となっております。工事期間中は、多くの生徒に迷惑をかけることとなります。3か月に及ぶ工事の間、生徒たちには不都合をかけますが、安全かつ迅速に工事を進めていく予定です。(写真は完成予想図)

最後になりますが、今まで、入学式・卒業式ではグラウンドを駐車場として利用してきましたが、今後、駐車場使用はできません。保護者の皆様におかれましては、駅周辺を中心とした駐車場を利用していただく以外にありません。誠に申し訳ありませんが、ご理解・ご協力の程、よろしくお願いたします。

駿美祭

美術デザイン科 科長 岡田昭夫

6月20日(金)・21日(土)の2日間、美術デザイン科では学園祭『駿美祭』を行いました。会期中は多くの保護者が来場くださり、また、PTA役員を中心に模擬店で学園祭の盛り上げに一役かっていたいただきありがとうございます。PTAで行った遊休品バザーにつきましては、多くの貴重な品物を出していただき、重ねて御礼申し上げます。生徒たちは様々な準備や練習を重ね、手作り感満載の有意義な2日間を過ごしたと思いますが、いかがでしたでしょうか。

20日は、1階ホールに作業用の机などを利用してステージを組んで、各クラスの催し物や、生徒会主催のゲームやクイズを行いました。1年生は短い準備期間で大変だったと思いますが、全員参加のダンスを披露してくれました。

21日は、一般公開を致しました。4階アトリエに自由制作を展示し、来場者の投票により賞を決める駿美祭コンクール、各クラスの教室を使って模擬店、漫研の展示・販売、美術部缶バッチ制作、階段は各クラスで分担して装飾も致しました。1階ホールでは何日も前から準備をしてくださったPTA役員を中心としたバザー・食品の販売、カラオケの他に、卒業生たちがライブを行い盛り上げてくれました。全館放送を使ってピンゴなども行い、多くの方が来場してくださるうちに盛会に終えることができました。また、思い思いの作品を展示した駿美祭コンクールには、93名423票の投票があり、3年池田秋穂が最高賞に選ばれま

した。この作品はかなり時間をかけ、試行錯誤をしながら制作していましたがその努力が報われる形となりました。(他の受賞者は以下の通り。詳細はホームページをご覧ください。)コンクールへの出品者が少なかったり、準備不足だったりしたところやいろいろ改善点はありましたが、今後より美デ科らしい学園祭を目指していきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願い致します。

2014年駿美祭コンクール受賞者

最優秀賞 PTA奨励賞 池田秋穂 3年



「儚くて」F50 油彩

優秀賞 PTA奨励賞 新海帆南 3年



「花」F10×2 水彩



「nonsense」ボールペン等



「私」F50 油彩・布

優秀賞 PTA奨励賞 田中萌 2年

優秀賞 PTA奨励賞 加藤舞 2年

- 他に奨励賞(3名)
- 長田瑞樹 1年
- 網野美聡 3年
- 佐野水姫 1年



各クラスの展示とパフォーマンス

1学年展示 主任 中込範彦

1年生は、四月の入学式から学園祭までの期間に授業内で作成された作品を展示しました。書道で書いた各自の名前の習字、英語で書いた自分新聞、技術家庭科で作った立体模型、理科で作った分光器です。習字は個性豊かな作品が並びました。中には段を持っているのではないかと思われる達筆もありました。英語の自分新聞は、まだ使える単語は少ないですが一生懸命自分を表現しているのが読み取れました。技術家庭科の作品は学園祭までに完成した生徒が少なく残念でしたが、途中から展示された水槽の中の世界を描いた作品は細部まできれいに表現されていて圧巻でした。理科の分光器は晴れていればきれいに虹が見える作品です。お菓子の箱を使い上手にできていました。他にも美術作品、習字の優秀作品などが他の展示教室に展示されていました。これからの成長が楽しみな1学年の展示でした。

2学年展示 主任 永山一宏

駿中の2学年は、学年末に行われる広島・京都の修学旅行に向けて、年間を通して平和学習を行います。駿中祭の学年展示もその一環で、学年生徒が全員で折った折り鶴を使ったオブジェを展示し、壁には一人ひとりが作製した「平和新聞」を掲示しました。これらの作業を通じて生徒は69年前の悲劇に思いを馳せ、約70年間続いた平和の価値を学んだのではないのでしょうか。なお、生徒が折った鶴と来場した方々に折っていたいただいた鶴は、三月の修学旅行の際

に広島平和記念公園で行う献鶴式で献納します。ご来場ありがとうございます。

3学年展示 副担任 原大介

3学年合唱曲の「手紙 ～十五の君へ～」にちなみ、「今の自分・15歳になる自分」と「未来への自分から今の自分へ」の手紙のような作品を制作し、展示しました。「今の自分・15歳になる自分」は幼少期から今に至るまでの成長の過程を写真・文字で表現する生徒、文字や絵で今の自分の気持ちを表現する生徒など、生徒一人一人が様々なやり方で作品を作りました。どの作品も生徒の個性がみられ、たいへん興味深い作品となりました。

また「未来への自分から今の自分へ」は、「今の自分」に対し「未来の自分」という立場でメッセージを書きました。「未来から現在へ」という設定のため、生徒は客観的に今の自分を捉え、激励・励ましをおくっていました。メッセージは、今の気持ちこそ素直に感じられる作品が多く、これからの希望や期待に溢れていました。

この2作品ともに、これから生徒の将来の飛躍が感じられ、これからの成長がますます楽しみになりました。

1年A組担任 羽澤健

「手作り感あふれるのがいんじゃないかな？」

駿中祭が近づき、生徒たちがクラスの出し物を決めている時間、ふとそう思っていました。手作りの作品には教養高い想像力を喚起させる力がある。拙い背景・構成・演技を目の前にしたとき、人は想像力を働かせる。段ボールで作った背景は、お城に続く階段に見え、唐突な場面展開に自分なりの

ストーリーを紡ぐ。完璧ではない演技は、ご愛嬌。特に示唆したわけではないが、A組はシンデレラをベースにした、手作り感あふれる寸劇を出し物に決めた。演技構成や展開、配役、演技練習やダンスの練習をA組の生徒はすべて自分たちで行った。担任が手伝ったことといえば、買出しと口出しぐらいか。

生徒主導で手作り感あふれる作品をやり切ったA組は、賞を取ることができなかった。しかし、担任としては、ひいき目も加わり、堂々の「最優秀賞」である。A組の作品を鑑賞し、流れるようなストーリーと、鮮やかな舞台背景、生徒たちの精一杯の演技をそこに見たとき、私の想像力もまだまだ錆びていないかと思えた。

1年B組担任 武川公貴

1年B組は、「ムーンウォーク〜歩く月〜」というタイトルの劇とダンスの2部構成で駿中祭に臨みました。劇については、かぐや姫が月に帰った後の物語というコンセプトでした。

生徒たちで役割分担をし、オリジナルのストーリーを考え、台本を作成する者、大道具を作る者、演技の練習をする者、裏方として舞台を支える者とそれぞれが短い準備期間の中で楽しみながら頑張っていました。ダンスについては、嵐の「ワイルドアットハート」という曲を披露しました。

ダンスも劇同様短い準備期間でしたが、毎日18時まで残って練習し、みんなで振付けや隊形について意見を出し合い、踊っては振付けの確認をしながら猛特訓をしていました。駿中祭本番では、ナレーションや音響、照明係の裏方チームの支えのもと、劇・ダンス共に最高のパフォーマンスが出

来ていました。生徒たちにとって初めての駿中祭で分らないことも多々あったと思いますが、今回の経験を経て来年度はもっともっと素晴らしいパフォーマンスを披露してくれることを期待しています。

1年C組担任 牧和弘

1年C組のクラスパフォーマンスのタイトルは「Let's サビだけ!? ダンスシンク」です。1曲目は「じん」によるVOCALOIDオリジナル楽曲「如月アテンション」です。曲のテンポがはやく、振り付けを揃えることが大変難しい曲でした。しかしながら、一生懸命練習し、本番では振り付けを揃えることが出来ました。2曲目は「ももいろクローバー」の「行くぜっ! 怪盗少女」です。名物の「エビ反りジャンプ」と生徒が考えたオリジナルの振り付けによって、中学生らしい元気な踊りとなりました。3曲目は「嵐」の「GUTS!」です。野球をイメージした振り付けが印象的でした。お互いに振り付けを確認しあいながら練習し、全員が振り付けを揃えることは大変でした。当初よりも短い時間のパフォーマンス

となつてしまいましたが、多くの方々にご協力いただき、発表することが出来ました。ご声援ありがとうございました。



1学年優秀賞 1年D組

2年A組担任 中村 圭世

2年A組のクラスパフォーマンスのタイトルは「タイムジャンプ!」。縄文・弥生時代にタイムジャンプしてしまい、元の時代に帰るためには、クラス皆で力を合わせてパフォーマンスをしなければならぬというストーリーでした。このシナリオはある一人の女子生徒が書いてくれました。新しいクラスになってからまだ二ヶ月で、クラスにまだまだまとまりがないのを感じ、この文化祭を機会に皆で団結したいという思いを込めてシナリオを書いてくれたようです。HR長と文化祭実行委員が中心になって練習をしましたが、指示を聞かず、自分勝手な行動をする者がいたり、意見が食い違ったりして、まとめるのにも苦勞していました。準備過程を見ると、まだまだ多くの課題がありますが、短い準備期間で生徒達やそれなりによくやっと思えますし、何よりも一人も欠けることなく全員が参加して創り上げ、皆で楽しめたことはとてもよかったです。

2年B組担任 新田真也

21期生にとって二度目の駿中祭。昨年は、「駿中祭とは何ぞや?」というところから始まり、手探りの中で、「気が付いたら終わっていた」という生徒が多かった様に思えます。そんな昨年の経験を活かしてか、早い段階から「劇&ダンス」でいくということを決まりましたが、選曲や脚本の段階でなかなか意見がまとまらず、徒に時間が経過していきました。結局、ダンスの練習が始まったのが火曜日、台本が出来上がったのが水曜日と、非常にタイトなスケジュールでしたが、「やるときはやる駿中生」魂を発揮し、土曜日の前日練習に間に合わせたのは見事でした。当日の発表も堂々としたものであり、「これなら優秀賞も...」と密かに期待していたのですが、結果としては

残念な結果に終わってしまいました。生涯でたった三回しかない駿中祭も、残すところあと一回。来年度は、最上級生として、各自が悔いを残さないよう、全力で取り組んでくれることを願っています。

2年C組担任 鹿山さおり

何年前か、映画を作ったクラスがありました。担任の先生がメガホンをとり、校外ロケを慣行し、ちよつとした恋愛ドラマ風の仕上がりました。演出や編集、音響効果もなかなかのもので、すばらしい作品でした。審査員や観客の目を引くことは間違いなく、文句なしの最優秀賞でした。ところが、後になって物議が醸し出されたのです。やれ、本番での失敗のリスクが少ないのはズルイだこの、やれ、担任の手がかりすぎていふだこの、終いには、学校外での活動は違反だ、などなど。そこで、舞台上でのパフォーマンスをすることに對しての公平性という面から、映像を使用した場合、2分までは総得点の8割、4分までは6割がクラスの得点になる」という規定ができました。それを承知の上、我が2年C組はミュージックビデオを作成しました。全員の「楽しいものを作りたい」という思いを形にすることができました。ご協力して頂いた皆様に感謝します。ありがとうございます。



2学年優秀賞 2年D組

3年A組担任 塩津奈央

一週間であれだけのパフォーマンスが完成するとは思っていなかった。3Aは、早々にダンスと劇を行うというのは決まったものの、そこから先はなかなか進まず。他クラスはダンスを完璧に仕上げている、なんて噂が駿中祭一週間前に飛び交う中、3Aも練習を開始した。男女がそれぞれにダンス練習を始めなかなかいい雰囲気だが、まだ決まらない劇の内容。友情を描く学園ものもいいが、ダンスの内容と噛み合わない。通しを行っているクラスもあるのに、全員で踊る曲にはまだ手を付けていない。そんな状態の本番三日前。ここから3Aは怒涛の追い込みを見せ始めた。思い切ったダンスの内容に合わせた、恋愛ものの劇を作成する生徒、全員で踊るダンスを男女問わず教え合う生徒など、クラス一人一人が一つのものを完成する為には本番に向けて全力で頑張っていた。そして迎えた本番、3Aは私の予想を遥かに超える素晴らしいパフォーマンスを披露した。賞には届かなかったものの、駿中祭最後のステージで彼らなりの「自己主張」が出来たと思う。

3年B組担任 鶴田和也

中学校生活最後の学園祭。それぞれの思いをぶつけ合いながら、短い期間ではありましたが、準備をしてきました。初めは女子の完成度に驚かされたながら、男子を心配していましたが、後半の男子の勢いには、普段見ることのできない集中力を感じました。少しずつ男女が協力し合い、ひとつの物事を成功させようと一生懸命に取り組む一人ひとりの姿に短い期間ではありますが、成長を感じることができました。最優秀賞を逃し流した涙は、真剣に取り組んだ証だと思えます。学園祭で身についたことを普段の学校生活に繋げてくれることを期待しています。お疲れ様でした。

3年D組担任 山岸航

「さすが三年生!」これが今回クラスを見守りながら思った感想でした。D組は駿中祭にかける思いが強かったため、パフォーマンスの内容を決めるときも、意見が対立しました。また、男子と女子の心の壁もあったように思います。しかし、行事が生徒を成長させるのですね。今回、それを強く感じました。個々の任された役割を果たしていく中で、一致団結し、男子にダンスの振り付けを指導する女子メンバーも出てきました。何より楽しそうでした。そして仲の良さが出たパフォーマンスでした。女子は器用で早い段階でまとまっていた。男子は陰の努力があったのでしようね。当日の「優勝以外は何もいらぬ!」という気迫は流石の仕上げでした。これからの残された日々、クラスで色々なことを体験すると思えます。今後大変なことに遭遇しても、みんなで協力して欲びへと舵を取ってほしいと思います。3年D組、頑張りました。私の中では最優秀です。



最優秀賞 3年C組

「白組三位」をいかに得るもの

白組担当 中沢恭子

「運動会の競技中、どんなことが起こっても最後まで諦めず、競技を続けること。」全力を出し切って悔いを残さないこと。」運動会前日に子ども達と約束したことです。当日の子ども達は、朝から団長を中心に声を掛け合い、競技中もその約束を守ってくれました。快晴の空の下、子ども達の活動する姿は、パワーに満ち溢れ、見ていて頼もしく、気持ちよかったです。

しかし結果は…、「白組三位」。

運動会の後のたてわり活動で、子どもたちに話したことがあります。「人生に無駄な経験はない。三位になった白組は、何かが足りず、その成長を促すために三位だったのだ。だからこの結果を全員が受け止め、その原因を一人ひとりが探り、次のさらなる成長につなげてほしい」と。

実はこの日、「運動会、三位だったけど頑張ったからいいよ。」と言ってあげようと決めていました。しかし、運動会という大きな行事を乗り越えた白組の子ども達の、さらに一つ成長した顔を見たら、言えませんでした。話し終えた時の白組の子ども達の瞳は輝きに満ち、その表情はとて凛々しく見えました。「この子どもたちは飛躍する」そう思いました。

人は多くの失敗や苦労を経験し、そこから多くの尊いものを学び取り、次のステップを踏み出していくのだと思います。(勿論、欲びも必要ですが)そしてそれを乗り越えていくために励まし合う仲間がいるのだと思います。

これからの白組の子ども達の活躍に期待しています。

青組の力

青組担当 望月一志

四月二十一日(月)、青組が初めて顔を合わせました。

昨年度、優勝したのは『青組』でしたので、『連覇』という言葉がすぐに思いつきました。運動会への準備をしていく中で、応援団長や応援団がみんなをまとめようとする姿や声掛けが、とても頼もしく見えました。応援や台風の目の練習も声を出し合い、一生懸命みんなで力を合わせて練習しました。

そんな中、色組対抗の綱引きや台風の目は、総練習の時になかなか勝つことができずに、子ども達が少し下を向く姿が目立ってきました。本番まで、気持ちを切り替えられるように声をかけたりして運動会を迎えました。

運動会当日の朝は、雨上がりでしたが、『青い』空が見えていました。青組は、最初の種目から一位を取り、順調に得点を重ねていきました。児童席からの声も大きな声援となり、午前中最後の種目「pull it! (綱引き)」になりました。練習時からなかなか勝てない種目ではありましたが、低学年が二勝して、午前の部を終わって二位と好位置につけました。

午後は、「応援合戦」から始まりました。大きな声と応援団の力強さ、みんなの団結力が見える応援となりました。「これからだ!」という気持ちで臨んだ午後の部でしたが、少しずつ点差を詰められ、最終種目の「一走懸命 絆をつなげ!」でも健闘及ばず、勝つことができませんでした。

結果は四位でしたが、青組の力を合わせた姿と一生懸命応援する姿は一番でした。

青空の下で水泳がスタート!

一学年主任 小西静穂

七月一日(火)から水泳の授業が始まりました。小学校では二学年ずつ小瀬スポーツ公園水泳場に行き、水泳の授業を行っています。一年生は、運動会が終わったばかりでしたが、元気いっぱい水泳を楽しみました。

小学校一年生は、水に慣れて遊ぶことが目標です。「水は、少し苦手…」という子もいたようでしたが、みんなで楽しくできる遊びをすることで、できなかった水への顔つけや恐怖がなくなっていました。

例えば、水中を歩く途中にフライングがあると、くぐりたくなるのが一年生です。顔をつけるのが苦手でも、自然と水に顔をつけてフライングを楽しそうにくぐっていききました。まねっこ遊びでは、水中でカエルになりました。地上でカエル跳びをするのと疲れてしましますが、水中は、地上と違って心地よいものです。何回もピョンピョン跳ねて、楽しそうに移動して遊びました。次はカニさんに変身。大きな泡をプクプク水中で出すと、これが息継ぎの技能へと発展していきます。

他の授業と違って、水中で学習する水泳は、遊びを通して水の特性(水中に沈もうとすると浮力が働きます)が浮いてしまう・息を吐くと逆に沈む)を知り、水に慣れ親しみ、楽しく活動することが水と友だちとなる第一歩です。

「水に慣れる遊び↓浮く遊び・もぐる遊び↓浮いて進む遊び」と水遊びを楽しく進めていき、安全の心得をしっかり守って、みんなで仲良く水泳を行い、夏の楽しい思い出をつくりたいと思います。

フィンランドからの友達

二学年主任 有野真紀子

六月十日(火)より二週間、フィンランドから駿高のご家庭にお母様とホームステイされた小学生のアキオ君が、二年生の教室で一緒に学習しました。

アキオ君は、フィンランド語の他に英語なら話せるので、二年生は一生懸命習った英単語を使って、アキオ君に学校のこと、学習内容、そして遊びを伝えていました。子ども達は、すぐ仲良しになりました。国語では、レオ・レオニの「スイミー」を、算数では、ものさしを使ってセンチメートル等の長さの学習を一緒にしました。

ちょうどアキオ君が来た時から運動会特別日課になり、校庭や小瀬スポーツ公園で毎日「駿台ソーラン」「大玉ころがし」「かけっこ」の運動会練習をしました。暑い中、アキオ君もよく頑張り、運動会当日も特別に参加しました。みんなより少ない練習でしたが、一緒に競技や踊りを楽しみました。参観されたお母様は、日本の運動会でこんなにも大人数の子ども達をまとめて全て完璧に進行していく様子にすっかり感心し、フィンランドの先生方に紹介したいとお話されました。お別れ会では、アキオ君がチェロの演奏をしてくれたり、お手紙を渡したりしました。アキオ君にとっても二年生にとっても素敵な交流となりました。



不思議？感動！科学の世界へ

三学年主任 山岸なぎさ

六月五日(木)に三年生になって初めての校外学習があり、山梨県立科学館へ行きました。当日は、ちょうど関東地方の梅雨入りということで、不安定な天候の中の出発となりました。

科学館に到着し、最初のプログラムは、天体観測と館内見学です。班毎に分かれ順番に、天体観測室へ向かいました。生憎の曇り空でしたが、大きな天体望遠鏡を見せただけで、説明を聞きました。赤く見える太陽の色が、実は白色だということを知り、とてもびっくりしていました。また、友だちと一緒にクイズの答えを探しながらの館内見学はとても楽しかったようで、笑顔で体験し、学ぶ姿が印象的でした。

次は、『ハイパー万華鏡』作りです。ハイパー万華鏡は、ビー玉と偏光フィルムを使い四通りの見方ができる万華鏡です。作業手順をよく聞きながら真剣に作業し、上手に作る事ができました。仕上がった万華鏡をのぞいて見ると、大歓声が響きました。とてもきれいな世界に、キラキラと目を輝かせ、興奮気味の子ども達でした。

最後に、プラネタリウムを鑑賞しました。夕方の空が、次第に暗くなり、徐々に星たちが浮かび上がると、「うわあ、きれい！」と感動の声が上がりました。『今夜の星空』と『葉っぱのリーフの物語』を見て、子ども達もすっかり星に夢中でした。

仲間と協力し、沢山学び、笑い、感動し、また一つ「気心」が育った有意義な校外学習となりました。これからも様々なことに興味を持って取り組み、感動できる子どもたちの心を大切にしていきたいと思えます。

甲府市連合音楽会に参加して

四学年主任 田中 愛子

甲府市連合音楽会は、昭和二十二年から続く、伝統ある音楽会です。本校でも、普段の音楽学習の成果を発表したり、他校の友達との演奏も聴き合える貴重な場として、毎年四年生が参加しています。どの学校も気合を入れ、時間をかけて練習し本番に臨む発表会なので、我等駿小十期生も二ヶ月以上前から準備を始めました。合奏は「軽快に楽しく」をイメージして、ビートルズのオブラディ・オブラダ、合奏は一転雰囲気を変え「美しいメロディー」のせ世界の平和を願う「U&I」という曲に挑戦しました。

合奏も合奏も、少しレベルの高いものを本格的に仕上げ発表するという経験は、四年生にとっては初めてです。「今日も気持ちよく歌えたね」とか「いろんな楽器を使えて楽しかったね」という段階から、更に高みを目指し、みんなできり上げ完璧に近づけていく厳しさ、おもしろさ、そして達成感へと導く難しい指導を音楽専科の依田先生に支えていただき、授業はもちろんのこと、朝練習や休み時間のパート練習に毎日励むことができました。自分たちの演奏風景をビデオに撮り、みんなでチェックし気持ち高めたり、発表会本番の直前まで、「悔いを残さない練習をしよう」を合言葉に何度も何度も歌い、繰り返し演奏しました。努力は確実に楽曲の完成度を高め、本番の素晴らしい演奏につながりました。

一つ山を確実に越えるには、シンプルだけれど練習をごまかさず、何回も何回も取り組むものだという事を、身染みて感じることができました。

五学年 社会科校外学習

五学年主任 山下 潤

六月五日(木)に社会の授業の一環として神奈川県のはまぎん子ども宇宙科学館と日産自動車追浜工場を見学してきました。小学校の授業で県外に出る最初の授業でもあります。子ども宇宙科学館は横浜銀行が運営し、全体的にノスタルジックな雰囲気がある科学館です。地上五階、地下二階と大きな施設で体験型の展示物が多く、当日は園児から中学生まで幅広い人たちが見学していました。子どもたちは目を輝かせて汗を流しながら科学的現象に触れることができました。日産自動車追浜工場では、自動車製造過程の一部を見学しました。流れ作業の中でシートやドアを取り付けたり、部品が自動的に運ばれてくる仕組みの説明を受けたり、出来上がった自動車をチェックする様子を見ました。また、広大な工場内をバスで見学し国内や海外へ輸出される自動車の多さに感動していました。積極的に質問し、疑問を解決しようとする姿もたくさん見られました。

校外学習は、見学先での学習以外にも、集団行動や班行動、時間やルールを守る事、仲間との協力、マナー、人との接し方や話し方など様々な事を学習してきます。このような活動や経験から多くの事を感じ取り、自分を成長させる糧にして、少しずつ大人になっていきます。今回の社会科校外学習は、大きな意味で社会を知り、肌で感じる良い機会となったことと思えます。



成長を感じた鎌倉散策

六学年主任 奥村貴子

梅雨入りがそろそろかと思われる五月十二日(木)、紫陽花が咲きそろえば美しい姿を見せる鎌倉へ六年生六十八名が校外学習へ出発しました。ここ毎日のようにシートと雨が降っており、この日も予報では雨でした。しかし、いつもお天気に恵まれている八期生。「大丈夫、いつものごとく晴れますよ」と言っていた通り、当日は雨に降られることもなく、良い鎌倉散策ができました。

振り返ってみると、最高学年になってからこの鎌倉散策までの約一ヶ月半は、何かと大きな行事が重なり、六年生にとっては大変忙しい日々でした。一年生を迎える会の企画、児童総会の開催、駿中進学に向けた入学準備テスト、そして六月の運動会に向けた練習と頭も体もたくさん使ってきました。今回の鎌倉散策も班別自由行動のため、移動時間の計算、電車の時刻表の読み方、お土産をどうするか、見学場所はどこにするかなど全て事前学習をし、行程表を作成してきました。当日はその行程表と地図を頼りに、お寺を拝観したり、江ノ電に乗ったり、若宮大路や小町通りで面白い物を楽しむなど、鎌倉の歴史や街の雰囲気も十分に味わうことができたようです。あまりの人の多さに、気が付けば迷子が大変な計画通りに進まなかったこと、途中喧嘩をしたなど、様々なことをこの散策で経験したようです。仲間と協力することの大切さや、お互い助け合うことの有難さが身に染みたようです。子ども達は、様々な活動を通して体も心も一歩ずつ大人へと成長を遂げているのだと改めて感じました。